

平成 28 年度に事後評価を行った評価結果（概要）について

1. 計画の指標の達成状況は次のとおりとなっている。

評価対象計画数	計画に掲げる指標をすべて達成した計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数
2	0	2

2. 計画に掲げる指標をすべて達成した地区の、本計画に取り組んだ効果として、次のような実績があった。

(1) 農村の振興

・該当なし。

(2) グリーン・ツーリズム、都市農業の振興

・該当なし。

(3) 農業生産基盤の整備

・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

・該当なし。

3. 指標の達成が100%未満のものは次のとおりであった。

評価対象計画数	指標の達成が100%未満のものがあつた計画数	うち指標の達成が70%未満のものがあつた計画数	うち指標の達成が50%未満のものがあつた計画数
2	2	1	0

4. 指標の達成が未達成となった主な要因としては、次のような事例があつた。

(1) 農村の振興

- ・該当なし。

(2) グリーン・ツーリズム、都市農業の振興

- ・都市との交流による農村の活性化を図るため、農家民宿及び宿泊施設の宿泊者数の増を目指しており、出雲歌舞伎や神楽の公演、須佐神社や八雲風穴など周辺観光施設と連携したツアーを行っている。ゴルフパックの宿泊やインターネット予約を強化したことにより宿泊者数は昨年度に比べて回復してきたが、目標には達していない。利用者ニーズの把握等により新しい旅行商品を開発するなど、宿泊者数の増加に努める。

また、地域産品の販売額増も目指しており、産直市については高齢化により産直会員の減少に歯止めがかからない状況ではあるが、新規会員の確保に努めつつ、観光客のニーズに合った品目の開発、品目数の維持に取り組み、販売増を図っていく。

(3) 農業生産基盤の整備

- ・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

- ・新技術の導入により地域資源を活かした農山漁村の振興を図るため、地域産物の販売額増を目指しているが、主力商品である養殖いわぎの原材料確保が十分にできなかったことや、白いかについては全国的な不漁により仕入量が落ち込んだままのため目標の達成が困難となった。代替商品として豊漁だったシマメイカを使った商品の売上げが伸びたため、全体の販売額は徐々に増加している。今後は安定的な原材料確保のため、漁業者、養殖業者への取組を強化するとともに、新商品の開発や大手百貨店等との取引拡大のほか、観光連携による地元での販売体制の構築などにより目標の達成を目指す。

5. 指標の達成が未達成となった計画については、今年度指標が未達成となった要因等を分析するとともに、「改善計画」を作成し、農政局の指導のもと、県・市町村が連携し、指標達成に向け取り組んでいる。